

年間テーマ：上杉家歴代の文書管理と歴史編纂

期間テーマ：齊定による改革の継承 11月23日（木）～12月24日（日）

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	番号	所蔵
複製 国宝上杉本洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	原本 室町～桃山時代 (16世紀)		上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥坤第一抽斗)					
1 上杉齊定伺書並上杉鷹山朱書勘返状	1通	16.1×28.1	文化8年 (1811) 頃 6日	1156	上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥坤第六抽斗)					
2 書付	1通	16.5×36.4	文政6年(1823) 頃	1374	上杉博物館
上杉文書「鶏肋集」16のうち					
3 諸目録	1冊	22.8×15.4	江戸時代 (1840～50年代)	1457-16	上杉博物館

上杉文華館では、国宝上杉本洛中洛外図屏風とともに、「上杉家文書」を毎月入れ替えながら常時展示しています。上杉家文書は、江戸時代以降に行われた文書の管理や歴史編纂を通じて、中世以来の上杉家の由緒や権威、特定の当主の事績を示す文書が収集、選別され、移動や変化を続けながら、現在の構成（2018通、4帖、26冊、保存容器として両掛入文書箱、精撰古案両掛入文書箱、黒塗掛硯箱、赤筆笥 乾・坤2棹、附として歴代年譜325冊）になったことが明らかになっています。

また、「上杉家文書」とは別に「上杉文書」と呼ばれる藩政文書を中心とした1万点弱の史料群があり、米沢市では令和3年度から文化庁の「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の補助を受け、調査に取り組んでいます。その中核は文書管理や歴史編纂を担った、江戸時代の御記録方や、近代の上杉家記録編纂所総裁伊佐早謙の関連文書です。上杉文書には、国宝「上杉家文書」を深く理解するための手がかりが、豊富に含まれています。

今年度は本調査事業の成果を活用して2つの史料群を紐解きながら、江戸時代から近代にかけて、文書の具体的な管理方法と歴史や記録の編纂事業、その背景にある藩政の状況や世情をご紹介します。永年にわたり文書を守り伝え、活用してきた人々の営為にご注目下さい。

〔齊定による改革の継承〕

上杉齊定は、上杉勝熙（8代藩主重定の長男）の子として天明8年（1788）に産まれました。寛政6年（1794）に、鷹山の実子で、10代藩主治広の世子（後継ぎ）となっていた顕孝が死去すると、代わって齊定が治広の世子と定められます。これにあわせ、齊定は米沢城三の丸にあった鷹山の隠居所餐霞館（さんかかん）に居を移し、鷹山のもとで教育を受けました。齊定は一旦は江戸に登りますが、文化7年（1810）からは国政見習いのため再び鷹山と同居しています。国宝「上杉家文書」には、鷹山と齊定がやり取りした手紙が多く含まれ、手厚い教育ぶりを知ることが出来ます。

齊定は文化9年（1812）に第11代藩主となり、鷹山の後見を受けて改革を継承していきます。文政5年（1822）には鷹山が死去しますが、この時期に至り藩の財政はようやく安定したのです。齊定は鷹山の遺訓を守って天保の飢饉などを乗り越え、天保10年（1839）に亡くなるまで藩政を担いました。

文書管理と記録編纂の面では、鷹山の治世下で整備された御記録所が、齊定の治世下でも活動を続けます。鷹山・治広の事績を伝える年譜の充実を模索し、家臣団統制に関する「諸士略系譜」（中級藩士以上の系図集）を始めとした諸記録の編纂と校正が進められました（上杉文書「御記録所局中之留」）。重要文書類の保存管理に加え、藩政の参考となる蔵書類の管理も御記録所が担いました（資料3）。